薬用植物等の活用研究会　事業報告

日比野剛*，梅谷かおり*

Annual Report of Meeting for the Study on the Utilization of Medicinal Plants

Tsuyoshi HIBINO and Kaori UMETANI

1. はじめに

近年，漢方製剤および生薬の需要は増加しているが[1,2]，海外産生薬の入手が困難になりつつある．そのような中，生薬原料等の国産化を促進するため，農林水産省は薬用作物の産地化を支援している[3]．県内企業においても，三重県内で薬用植物の栽培が行われ，それらを原料として使用し，三重ブランド化をねらった製剤の開発などが進められている．

薬用植物は生薬原料や医薬品原料に加工され，医薬品製剤（生薬，漢方製剤を含む）の製造に使用されるが，医薬品原料として利用されない部分がある．たとえば，甘草の根は医薬品原料として利用されるが，葉や茎などの地上部は利用されることは少なく，ほとんどが廃棄されている．これらの部分にも，薬用植物の有効成分が少量含まれており，廃棄物削減，薬用植物栽培における収益性向上などの観点から，有効活用が必要とされている．薬用植物からの薬用成分の抽出・精製などで発生する残渣についても同様の課題がある．

そこで，令和 6 年度は，公開型研究会として「薬用植物等の活用研究会」を開催し，薬用植物の未利用部分を含めた利活用に関して，研究会参加者と情報共有および意見交換を行った．

2. 研究会の開催

令和 6 年度は，公開型研究会として「薬用植物等の活用研究会」を 1 回開催した．はじめに，田中俊弘岐阜薬科大学名誉教授より,「薬用植物の未利用部分の利用」の題目で，薬用植物の特徴，薬用成分および未利用部分の活用事例，医薬品と食品（特保，機能性食品，一般食品）との区分の違い，日本薬局方における漢方薬などについて講演いただいた. 続いて, 工業研究所職員から, 造粒, エキス粉末の錠剤化，服薬補助用アイスクリームなど薬用植物の粉末やエキスの利用に応用可能な研究 4 件を紹介した．

その後，研究会参加者により，薬効成分を利用した製品開発の他，未利用部分の活用・利用分野拡大，栽培技術，獣害対策など，薬用植物（生薬を含む)の有効利用,産地化などについて議論し，情報共有および意見交換を行った．

研究会終了後には，参加者から個別に相談があり，工業研究所への協力依頼（試作・開発の技術相談）もあった．今後，参加いただいた事業者を主な対象として，課題解決に向けて対応していく予定である．

3. まとめ

薬用植物の利用において，栽培から製品化までを商業的に成り立たせるには，薬用植物の薬用の部位を有効活用することは言うまでもないが，廃棄物削減,収益性向上も重要な項目であることが，この研究会の討議内容から改めて認識された．薬用植物の利用に関する研究会は，来年度以降も継続して開催していく予定である．また，いずれは薬用植物以外の作物も対象として，作物を活用した製品化，未利用部分の有効利用に向けた活動へとつなげていきたいと考えている．

参考文献

1) 山岡傳一郎ほか:“生薬国内生産の現状と問題”.

＊　食と医薬品研究課

日東医誌 Kampo med，68, p270-280 (2017)
2) 小松かつ子：“生薬を巡る現状と生薬・薬用植物研究の展望”．ファルマシア，57(2), p89-93 (2021)
3) 農林水産省:“薬用植物（生薬）をめぐる事情”. (2024)

表 1　令和 6 年度に開催した薬用植物等の活用研究会

研究会	開催日	場所	内容	参加者数
薬用植物等の活用研究会	令和 7 年 1 月 28 日	工業研究所	【講演】「薬用植物の未利用部分の利用」 岐阜薬科大学名誉教授　田中俊弘氏 【研究紹介】 「緑茶微粉末の造粒による分散性向上」 「緑茶粉末を主成分とした錠剤の製造」 「芍薬甘草湯エキス錠剤の成形」 「服薬補助用アイスクリームの開発に関する一考察」 工業研究所職員 【意見交換】 未利用部分を含めた薬用植物の活用方法について	10 名